

普通科人文36班

お土産で地域経済に貢献する方法

班員 川口睦希 福田彩羽
塩谷夏菜 緒方陽菜

指導者:川越雅文先生

研究の動機

延岡のお土産屋と協力し、新しい方法でお土産をPRすればお土産が売れ地域経済に貢献できるのではないかと考えたから。

仮説

延岡のお土産屋と協力して新しい方法でお土産をPRすれば地域経済に貢献できるのではないか。



先行研究・分かっていること

【お土産を買う理由】

- ・そこでしか買えないもの(28.1%)
- ・名物、名品だから(20.9%)
- ・欲しい物があるから(18.4%)

【買う時に気にすること】

- ・その地でしか買えない(26.4%)
- ・値段(23.7%)

【1回での旅行でのお土産代】

- ・1000～3000円未満(33.3%)
- ・3000～5000円未満(26.4%)

*旅行消費額の約33%がお土産！



研究計画

4～5月	PRするお土産についての調査
6～7月	効果的なPR方法を考案・実行
夏休み	考えたPR方法の効果確認・改善
9～10月	改善点を活かし新たなPR方法を実行・改善
11～12月	同様のことを繰り返す

研究方法

1.調査

- ・延岡の有名なもの
- ・延岡の既存のお土産
- ・過去にやっていたPR方法
- ・人気のお土産

2.PRするお土産を決める

3.PR方法を考える

4.3を実行

5.PR方法の改善

6.3～5を繰り返す



参考文献

1角田美知恵「土産品開発と地域活性化についての考察～函館市を事例に～」

CORE.2020.8.11.<https://core.ac.uk/download/pdf/327332253.pdf>(参照2023.12.4)

2「お土産」に関するアンケート調査、Mpacマーケティング情報パック.2013.09.06.<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000282.000000983.html>(参照2023.12.04)